

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	慶應義塾大学	整理番号	B04
プログラム名称	グローバル環境システムリーダープログラム		
プログラム責任者	青山 藤詞郎	プログラムコーディネーター	清木 康

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、具体的な環境問題に即して、メジャー（主専攻分野）とマイナー（副専攻分野）が選択され、研究科及び教員間の有機的な連携が図られ、文理融合型のグローバル環境システムリーダー育成を行う実効的な学位プログラムが構築されている。海外の連携・提携機関に修士時で3カ月間、博士時で原則として6カ月間渡航する国際トレーニング制度や遠隔コラボレーションシステムによる高いレベルの教育研究環境が整備されている。また、メジャー研究について所属研究科の学位取得基準を満たすこと以外に、「国際トレーニング成果発表」や国際会議での2回以上の英語による発表が求められており、学位の質の保証がなされていることは、十分評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、日本学術振興会育志賞や国際学会での **Best Paper Award** 等の受賞者を多数輩出しており、本プログラム学生を著者とする国際共著論文が68件にも及んでおり、年々増加している。その成果を基に、海外を含む大学、国際的な企業等に修了者の多くが就職（国内大学5名、国内企業1名、海外大学2名、海外企業1名）し、グローバル環境システムリーダーの人的ネットワークが構築されつつあることは、十分評価できる。15名の平成29年度修了予定者については、着実に学位が取得できるように、更なる指導への尽力が期待される。

事業の定着・発展については、慶應義塾大学塾長のリーダーシップ体制の下、本プログラム合同運営委員会及び外部評価委員会を設置して本取組の成果を毎年評価するとともに、本プログラムを将来も常設の教育コースとして定着させる計画となっている。また、そのための経済的支援策として、大学独自の給付型奨学金、学生向け研究支援基金の支援策が継続され、将来にわたって本プログラムの趣旨に沿った人材が輩出されることが期待されることは、十分評価できる。